

よりよく生きる

1年生道徳授業の紹介「裏庭での出来事」(読み物資料)

【資料のあらすじ】

遊び仲間の3人(主人公:健二、大輔、雄一)は、裏庭で物置の窓ガラスを2枚割ってしまう。1枚目は雄一が鳥のひなを守るためだったが、2枚目は遊びの中で健二が割ってしまった。大輔が先生に対して割った理由をごまかしたことで、健二も正直に本当のことが言えなかった。家に帰り、健二は思い悩み始める。何もする気が起きない健二であったが、家で自問自答をする中で、自分がどうしたいのかを考え直して決心する。翌朝、健二は先生のところへ報告に行こうとする。



自分に正直に生きるとは？(生徒の意見)

- ・健二は、今まで自分に嘘をついてきたと思う。自分がどうしたいか考えるよりも、どうしたら楽に生きられるかみたいなことを考えていたと思う。だけど、自分がどうしたいのかを問うことで、もっとよりよい生き方ができると思うと気づき、先生に事実を言いに行くことを決意したと思う。正直に生きるとは、嘘をつかずに、素直に自分の行動を認めて、自分や他の人がよりよく生きていくことだと思う。
- ・正直に生きることは、自分にとってプラスなことだと思っていて、自分がやった過ちは、素直に認めることが大事だと思いました。
- ・私も、何か問題を起こしたときには、正直になりたいなと思いました。正直に生きるとは、嘘をつかずに自分に正直に生きることだと思います。何かあったときには、その場で正直に言うことができるようになりたいです。
- ・自分が後悔しないように行動すること。自分が正しいと思ったことをすること。
- ・それぞれの立場で考えてみながらの、最後の健二の行動は結構、勇気がいると思いました。結局、自分たちにいいような嘘をついて、後悔するようなことはやめたほうがいいと考えました。
- ・自分がしてしまった悪いことは、自分の口で謝って、いつでも正直に何でも言える誠実な心を持って生きることが大事だと思います。

今回の授業は、自分の行動に責任を持ち、自らを律し、誠実に生きようとすることを考えることができる授業でした。生きるうえでの基本的な態度とは、自ら考え、実行し、自己の行為の結果に責任を持つことです。しかし、人間は常に強い生き物であることは難しく、簡単に周りの考えに同調してしまったり、責任を誰かのせいにしまったりすることもあります。そういった行為をしてしまったときには、心が痛むものです。そうした自分自身の弱さから逃げないことが、自分の誇りを守ることにつながり、それによって誠実で責任ある行動が取れるようになってくるのかもしれません。